

佐賀市中心商店街 (NPO 法人まちづくり機構ユマニテさが)

佐賀県佐賀市

インバウンド

地域課題対応

若手・女性

生産性向上

ポイント

「わいわい!! コンテナプロジェクト」で新たなコミュニティが生まれ、
民間事業者の出店につながる。

基本データ

所在地	佐賀県佐賀市白山
人口	約 23 万人 (佐賀市)
電話/FAX	0952-22-7340 / 0952-22-7346
URL	http://www.humanite-saga.com
会員数	195 名
店舗数	363 店舗 (小売業 159 店、飲食業 120 店、サービス業 51 店、その他 33 店)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	主婦、家族連れ (親子) / 30 歳代、40 歳代

商店街概要

佐賀市は、県のほぼ中央に位置する人口約 23 万人の都市であり、毎年インターナショナルバルーンフェスタが開催されるなど、「バルーンのまち」として知られている。中心商店街は、JR 佐賀駅から徒歩 15 分ほどの場所に位置し、かつては多くの来街者で賑わっていた。その後、昭和 60 年代からの郊外店の進出や平成 12 年以降の大型ショッピングセンターの開業にともない空洞化が進んだ。

そのような状況を解決するために、活性化への活動を集約し、機能的かつ迅速に事業を展開する組織が必要であったため、平成 21 年 11 月に「NPO 法人まちづくり機構ユマニテさが」が発足した。

取組の背景

大型店の進出により街の求心力が低下

佐賀市の中心市街地においては、モータリゼーションの進展による郊外店の進出、大型ショッピングセンターの開業に続き、平成 15 年には中心市街地内の主要商業施設が閉鎖した。また、商店主の高齢化、店舗の老朽化などにより閉店する店舗が相次ぎ、その結果として空き店舗数の増加、通行量の減少など中心市街地の空洞化に歯止めがかからない状況であった。

そのような状況の中、NPO 法人まちづくり機構ユマニテさが (以下、「ユマニテさが」という。) は、中心市街地の魅力を高めるために、佐賀市の中心市街地活性化基本計画の中の「来る人を増やす」、「住む人を増やす」、「歩く人を増やす」ことで賑わいあふれる街とすることを目指すべき姿と定め、市民のライフスタイル調査や分析などを行った結果、①新たな担い手の育成、②日常的な賑わいの創出、③魅力的な空間づくりに取り組むことが必要であると結論づけた。



空き店舗が増加し、歩行者通行量が減少

取組の内容

担い手育成、賑わいイベントなどで集客力アップ

第一に、新たな担い手を誘致し育成するため、エリアごとに活性化に必要な業種を公募し、出店を支援するテナントリーシング事業を実施。また、商店街と連携し、開業意欲のある者を対象として、実際に店舗を経営しながら、経営ノウハウの習得などを支援することによって、新たな商業者を育てるチャレンジショップ事業を実施した。

また、中心市街地の課題となっていた空き店舗をリノベーションして、首都圏から新たな事業者を誘致し学生のシェアハウスとして運営する事業を行った。

それらの結果、今までの商店街にはなかったような魅力的な店舗・経営者が新たに加わり、従来の商店主たちと上手く融合し、商店街の新陳代謝が図られることによって来街者の増加につながっている。

次に、日常的な賑わいを創出するために、商店主、青年部、市民などと知恵を出し合い協働で独自のイベントを実施していった。

さらに、平成 23 年度に社会実験として、誰もが気軽に集い、憩えるような魅力的な空間を整備する「わいわい!! コンテナプロジェクト」を実施した。これは空き地を借り受けて芝生を張り、緑あふれる空間とし、そこに中古のコンテナを設置し自由に読書ができる空間としたところ、今まで商店街に来ていなかった人々、特に親子連れが目立ち、8 ヶ月間

で来館者数は約 15,000 人を達成することができた。翌年度からは、図書館機能に加え、交流スペース機能、チャレンジショップ機能を持ったコンテナを設置し日常的にワークショップなどを開催したところ、来館者数は平成 24 年度 27,974 人、平成 25 年度 68,710 人と飛躍的に増加し、そこで出会った人々とのつながりによって新たなコミュニティが生まれるなどの動きが出てきた。これは今までの大規模な再開発事業とは一線を画した新たな手法による街の活性化策として注目されている。



「わいわい!! コンテナプロジェクト」

取組の成果

回遊性の向上による新たな民間事業者の出店

一連の取組の結果、通行量は徐々に増加していき、少しずつではあるが賑わいが戻ってきている。しかし、依然として、中心市街地内には空き地や老朽化した空き物件が散在し、街のイメージダウンの要因となっており、来街者の回遊性に欠ける状況であった。このため、空き地をリノベーションした「わいわい!! コンテナプロジェクト」の中で様々な講座を開催したり、また、周辺店舗と連携してイベントや情報発信などを行うことにより、来街者の回遊性が高まり、周辺への波及効果として、空き店舗への新たな民間事業者の出店につながっているところがある。

また、近年では空き店舗を有効活用し、賑わいにつなげるための新たな取組として、期間限定・低家賃でお試し出店者を募る「オープンシャッタープロジェクト」を行ったところ、多くの出店希望者が現れ、その中から本格出店につながる効果も見られた。



歩行者通行量が増加した商店街

実施体制

「ユマニテさが」は、佐賀市から唯一中心市街地整備推進機構に指定されているまちづくり団体であり、まちづくりに関心のある個人および企業などで構成されている。設立以降、様々な主体と連携しながら、街の活性化に取り組んでいる。例えば、「わいわい!! コンテナ」を設置する際には地元商店街、企業、市民などが協働し芝張りを行ったり、また、中心市街地の旬な情報や魅力を発信する新聞「街なかかわらばん」の制作についても、市民や学生などと共同で企画立案し、市民自らが記者となり情報発信をしていくなど連携を図っている。今後は、駐車場管理、共通駐車券、サブリース事業など既存事業の実施や新たな事業を創造することで、収益を確保しつつ、中心市街地の賑わいに資する事業を継続的に行っていくこととしている。

キーパーソンからのコメント



NPO 法人まちづくり機構
ユマニテさが
タウンマネージャー
伊豆 哲也

エリアの価値を上げる

空き店舗対策事業の取組の中で、店舗の誘致に成功しても、すぐ近くで新たな空き店舗が発生するなどエリアとしての効果が見えにくいという課題がありました。

そうした状況の中、平成 23 年度からスタートした「わいわい!! コンテナプロジェクト」は、予想以上の波及効果をもたらしました。直接的なリーシングではなく、エリアの価値を上げることで状況が変わることを実感したプロジェクトとなりました。

“まちづくりは、ひとづくり”

“まちづくりは、ひとづくり”といいますが、改めて、その言葉の意味を具体的にイメージしながら事業の企画実行をしています。活性化とは、次代のまちの担い手が育っていくことだと思っております。

また、ひとづくりにおいては、佐賀独自の風土の読み込みが重要であり、さらに地域の資源を掘り起こし、それを磨き上げることによって、佐賀市中心市街地の活性化につなげていきたいと考えています。